

平成28年度
事業実績

豊岡市社会福祉協議会

目 次

使命1 自ら行動し地域を動かす社協	3
1. 多様な住民ニーズを受け止めて対応する機能の整備と充実	3
2. 地域とのつながりのある関係	4
3. 総合相談体制の構築	7
使命2 つながる・つなげる社協	13
1. 地域の福祉ニーズに基づく先駆的な取り組みへの体制づくり	13
使命3 信頼される社協	15
1. 社協の事業体組織としての機能強化及び運営強化	15
2. 職員の人材育成に向けた基盤整備	17
3. 安定した財源確保と健全な財政運営	18
豊岡市社会福祉協議会事業活動	
1. 地域福祉活動	20
2. ボランティア・市民活動センター、福祉学習	30
3. 在宅福祉サービス	31
4. 法人運営	33
5. 介護保険・障害者サービス	37
6. その他	40

人口減少、少子高齢化の進行、地域社会や家族のあり方等が変化する中で、介護保険制度が改正され2025年を目途に医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステムの構築の実現」がうたわれています。

また、平成29年4月に市内全地区圏域でスタートする「新しい地域コミュニティ組織」の体制構築が本市の地域づくりの柱となっており、地域福祉分野においても地域の生活課題・ニーズの集約、課題解決に向けた協議・実行が示されています。

このような状況の中で、地域の支え合い体制の構築を使命とする本会においても「新しい地域コミュニティ組織」を中核とした住民主体の地域づくりを地域住民等とそれら支援する専門職が連携・協働のもと推進されるよう、各地区圏域の住民ニーズ・生活課題の集約・提示、「新しい地域コミュニティ組織」の土台となる行政区での住民の居場所づくり、話し合いの場づくりの支援に取り組みました。

これまで、豊岡市（以下「市」という。）が策定した「豊岡市地域福祉計画」と本会が策定した「第2次豊岡市地域福祉推進計画」のもと、市とともに地域福祉を推進してきましたが、両計画が来年度に次期計画期間を迎える中で、市、市社協、住民等とそれぞれの役割と協働のあり方を明確化するべく、行政計画である地域福祉計画と、具体的な地域福祉推進の実施計画である市社協の地域福祉推進計画を一体的に策定しました。（「豊岡市地域福祉計画（平成29年度－平成33年度）」）。

「一人ひとりが つながり 支え合う 安心な地域づくり」を基本理念とした基盤強化計画（平成26年度－平成30年度）に基づき、住民に必要とされる社協となるため、組織体制の改編・強化に取り組んできましたが、計画の中間年である平成28年度に市民、経営コンサルタント、税理士等による「第三者評価委員会」を設置した。各事務事業の個別評価ではなく、合併後に着手できなかった課題を含めて、第三者的な視点で点検・評価を行い、地域福祉を確実に推進する組織・経営基盤強化の方向性が打ち出され、今後、社協として進むべき姿・ビジョンが明確になりました。

基本理念

「一人ひとりが つながり 支え合う 安心な地域づくり」

【使命1】

自ら行動し、地域を動かす社協

～住民のニーズをキャッチし、解決に向けて行動します～

1. 多様な住民ニーズを受け止めて対応する機能の整備と充実

平成27年4月の介護保険制度の大幅改正では、現在の団塊世代が後期高齢者となる2025年を見据えて、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステムの構築」を実現することを目的とすることが示されました。

主な施策として、市町村事業（総合事業）として、高齢者の在宅生活を支えるため、ボランティア、NPO、民間企業、社会福祉法人等の多様な主体による重層的な生活支援・介護予防サービス（配食、家事援助、移送等）の提供と、行政区圏域といった小地域における交流サロン・コミュニティカフェ（居場所づくり）、声かけ・見守り訪問（見守り）、家事援助・配食（生活支援）といった地域での支え合い体制の構築が制度改正の中で位置づけられています。

「第2次豊岡市地域福祉推進計画」の最終年度となる今年度は、平成29年度から平成33年度までの5年間を期間として「豊岡市地域福祉計画」の策定を豊岡市と一体的に取り組みました。策定にあたっては、市民アンケートや地域コミュニティ組織等へのグループインタビューを通じて地域福祉における課題を整理し、地域団体の代表者、福祉関係者等で構成される「豊岡市地域福祉計画策定委員会」で地域課題の解決に向けて、住民、社協、市の役割を整理しながら取り組んでいくことについて検討を重ねました。計画の中では、地域課題の解決に向けて、住民の主体的な見守り、話し合い、集いの場の実施、住民と専門職の協働等が位置づけられました。

多様な主体によるサービス提供や住民を主体とした支え合い体制の構築に向けては、生活支援コーディネーターを中心に地域住民のニーズ・生活課題の集約・分析、地域福祉活動者・グループと連携しながら地域の居場所づくり、話し合いの場づくり、見守り活動等の基盤づくりに取り組みました。

（1）横断的な住民ニーズの集約・分析、地域へのフィードバック

①生活支援コーディネーターと地域包括支援センターの連携体制の強化

誰もが住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるには、地域のさまざまな生活課題（育児、介護、障害、貧困等）の解決を住民主体による課題解決の仕組みと、専門職による包括的・総合的な相談支援体制の確立の2点が不可欠です。生活課題を受け止められる地域づくりと相談支援体制の確立は、それぞれの領域で分けられた取り組みではなく、地域の中で双方が連動することが生活課題の解決につながるものであり、地域包括ケアシステムの構築の土台ともなります。

このような仕組みづくりに向けて、各生活支援コーディネーターと地域包括支援センターの専門職（主任介護支援専門員、社会福祉士、看護師）が定期的に合同ミーティングを実施し、個別課題を受け止められる地域づくりとそれをバックアップする専門職の相談支援体制のあり方の視点の共有と、それぞれが取り組んでいる活動の目的・効果などの点検に全員で取り組みました。また、各地区センター単位でも同様に生活支援コーディネーターと地域包括支援センターの合同ミーティングを実施し、地域力を高め、住民主体で課題解決できる仕組みと専門職の相談支援体制の確立について、より身近な地域での検討と実践に取り組み始めました。

②職員の横断的な支援体制の強化

各部署・事業所でキャッチした住民ニーズや生活課題に各部署・事業所ごとに取り組むのではなく、組織として横断的に共有する場として地区センター単位で地域福祉担当職員と介護サービス事業所職員による「職員ミーティング」に取り組みました。

見守りや生活支援等が必要な地域住民の地域生活を支えるために、課題解決に向けた意識と目的を共有し、解決に向けて必要なフォーマルサポート（介護サービス等）とインフォーマルサポート（住民の見守り、サロン参加への声かけ、ゴミ出し等）を検討・実行し、取組みの状況を住民へフィードバックするなどチームとして課題を抱える利用者・住民の地域生活を支えられるよう取り組みました。

しかし、制度の狭間にある生きづらさを抱えた住民の困りごとをキャッチするために、地域に出向いて住民から課題を収集する「アウトリーチ」機能が十分に果たされている状況には至っていません。ケアマネジャーやヘルパーも訪問時等に地域の情報を得るなど、組織全体で地域課題にアウトリーチをかける機能を強化する必要があります。

2. 地域とのつながりのある関係

住民が地域の生活課題に関心に向け、主体的に課題解決に向けた取り組みが進むよう、生活支援コーディネーターを中心に地域コミュニティ組織、行政区の区役員、サロン世話役等と話し合いの場、交流の場（居場所づくり）、連携の場など地域の「場」づくりに取り組みました。

(1) 新しい地域コミュニティ組織との連携、支援活動の展開

平成29年4月に市内全地区公民館圏域でスタートする「新しい地域コミュニティ組織」の地域福祉部が地域の生活課題の発見、課題形成、資源開発が行われる場となるよう生活支援コーディネーターを中心に設立準備委員会に参画し、ワークショップ等を通じて地域課題の共有、地域福祉部の方向性について提案を行うなど地域福祉部の立ち上げ支援に取り組みました。

具体的には、各行政区で取り組んだ支え合いマップづくりから地区圏域内の介護、買い物、通院、食事、雪かき等の生活課題や話し合いの場、交流拠点・活動等の社会資源情報を整理し提示することで、住民の地域の生活課題への気づきの場としました。また、行政区と地区のそれぞれの課題やできることを整理しながら、地域福祉部が行政区では解決で

きない生活課題の共有、解決に向けた協議の場となるよう提案・働きかけを行いました。

また、地区圏域でコミュニティカフェの立ち上げや買い物ツアーを実施する際には、企画、広報、運営方法等について情報提供・助言を行うなど交流拠点づくりのサポートに取り組みました。

(2) 地域福祉研修会の開催

地域包括ケアシステムの構築の中においては、地域における交流サロン・コミュニティカフェ（居場所づくり）、声かけ・見守り訪問（見守り）、家事援助・配食（生活支援）等、住民同士による支え合い活動の充実も制度改正の中で位置づけられており、従来からこれらの取組みを推進してきた本会では、その必要性・効果等について住民の気づきの場として地区圏域で区長、民生委員、福祉委員、地域コミュニティ関係者等を対象に地域福祉研修会を開催しました。

研修会においては、住民同士の支え合いには住民が気軽に集まれる交流の場が効果的なこと、日頃の見守りが災害時の助け合いにつながることなどを実践事例を交えた内容で実施し、支え合いに対する住民の意識が高まるよう啓発を行いました。

地域福祉研修会開催状況

地域	地区	開催日	参加者数（人）	
豊岡	中筋	H28.7.20	3 5	
		H28.10.19	4 5	
	奈佐	H28.11.5	2 7	
	港	H29.1.16	1 5	
城崎	湯島	H28.10.25	1 4	
	内川	H28.10.21	2 7	
竹野	中竹野	H29.3.13	2 4	
	竹野	H29.3.15	7 1	
	竹野南	H29.3.17	3 9	
日高	西気	H28.7.7	2 7	
	八代	H28.8.25	2 0	
	国府	H28.9.8	3 7	
	清滝	H28.10.12	2 6	
	三方	H28.10.25	4 3	
	日高		H28.10.31	3 6
			H28.11.1	3 6
但東	合橋	H28.7.20	2 3	
	資母	H28.7.22	2 7	
	但東地域	H28.9.23	3 5	
	高橋	H29.3.19	3 0	

研修会を通じて、住民にとって地域の生活課題・困りごとが確認でき、それを解決していくには、住民同士の声かけ、見守りや交流できる場、話し合いができる場づくりの必要性に

ついて気づきの場となりました。

研修会後には、支え合いマップを活用しながら見守り活動、見守り会議に定期的に取り組む行政区も見られました。また、住民の居場所づくり（ふれあい喫茶等）、見守り活動、生活課題を話し合う場に関心を持った区長や地域住民等と継続的に話し合いを重ね、新たな居場所、話し合いの場につながりました。

(3) 行政区を基盤とした支え合いの地域づくり（福祉委員会）の基盤整備

新しい地域コミュニティ地域福祉部が地域福祉の中核的な組織として機能するには、その土台となる行政区の課題解決力の底上げ（支え合いの仕組み）が必要であり、その基盤組織となる福祉委員会組織の構築と活動の展開に重点的に取り組みました。

行政区の支え合いの仕組みづくりは、各行政区の担当コミュニティワーカー、生活支援コーディネーター等の地域福祉担当職員が支え合いマップづくりやサロンの世話役等からキャッチした地域課題を整理・分析し、「居場所づくり」、「話し合いの場づくり（見守り会議）」、「生活支援（買い物、移送、雪かき、食事、介護等）」の三段階のステップで推進を図りました。

① 居場所づくり

支え合いの地域づくりに向けた取組みである住民同士が気軽に顔を合わせられる居場所づくりは、地域福祉担当職員が区役員や地域福祉活動実践者に働きかけたことで、住民の居場所づくりに対する意識が高まりを見せ、コミュニティカフェやサロンの立ち上げにつながっています。また、サロン、コミュニティカフェが住民交流から地域の生活課題の気づきの場へとつながる効果があることが民生委員等の間で浸透してきており、他区の居場所づくりの取組みを参考に、新たにサロンを立ち上げたり、運営方法に活かすなどの動きが見られます。

市健康増進課と連携を取り、玄さん体操教室からサロン、コミュニティカフェへの展開を検討している行政区があれば、地域福祉担当職員が区役員等にサロン、コミュニティカフェの効果、運営方法等について助言し、新たに玄さん教室とサロン、コミュニティカフェを組み合わせた取組みに発展しています。

コミュニティカフェ等の終了後には、欠席された常連の住民の自宅へ様子を伺いに行ったり、参加しないが気になる住民の方への声かけや見守り方法等についての話し合いが行われています。

一方で、楽しい交流の場ではありますが、地域の気になる住民について気づきの場には至っていないサロン等もあり、交流から気づきの場、話し合いの場へとつながることが理解されるよう、コミュニティワーカー等が地域の生活課題を把握しながら、住民の気づきを働きかける必要があります。

H29.3月末時点設置数：215カ所

②話し合いの場づくり（見守り会議）

支え合いマップづくり等で地域の生活課題を共有した行政区においては、生活課題の解決に向けて、区役員や住民が高齢者世帯や気になる世帯の見守り訪問をグループで実施し、福祉委員会やサロン開催時に併せて見守り会議を実施して情報を共有し、日頃の見守り方法の検討や、新たな住民交流の場の企画、家の大掃除に住民で取り組むなど具体的な支

援活動が展開されました。

見守り会議を通じて、気になる世帯の見守り訪問やサロンへの参加につながっているケースがある一方、支え合いマップづくりから生活課題が共有されるものの、具体的な話し合いに発展しない行政区や、地域福祉担当職員の関わりが十分ではなく、生活課題を十分把握できず、住民同士の見守り・支え合い活動について十分理解を浸透できていない行政区もあります。

地域福祉担当職員が行政区の地域課題を把握・整理し、住民に生活課題の解決に向けた継続的な見守り、話し合いの場の必要性への気づきを働きかけるとともに、話し合いの場において課題や解決に向けた方向性の整理等のファシリテート力を高めることが必要となっています。

また、地域福祉担当職員だけが地域住民の見守り・支え合い活動をサポートするのではなく、地域包括支援センター、ケアマネジャー、ヘルパー等の専門職も見守り会議に参加するなど、住民の主体性を引き出しつつ、専門職によるサポートをつなぎ合わせて、地域の課題解決、地域づくりを重点的に推進していくことが必要です。

H29.3月末時点設置数：59カ所

(4) 住民主体の地域福祉活動の推進を協議する場

地域福祉活動、地域づくりが着実に推進されるには、地域住民や関係機関等の連携・協働のもと、行政区を始め地域全体の地域力の底上げが必要であり、住民のニーズ、地域課題の把握、課題解決に向けた必要な方法、取り組み等を協議する場として従来の「地区センター運営委員会」を「地域福祉推進委員会」に名称を変更し、機能・役割を明確にして定期的を開催しました（設置は地区センター単位）。

地域福祉推進委員会には、地域課題の解決に向けて、住民が気軽に集まれる場づくり（場所、担い手等）、地域全体を巻き込む工夫（役割づくり）、広く地域の理解を得る取り組み等について、各委員が行政区、地域コミュニティ組織、民生委員等の立場で役割、実践することについて協議を行いました。

地域福祉、地域づくりは住民だけで活動を実践することの難しさや、必要性は分かるが第一歩が踏み出せない等の意見もあり、社協が地域福祉、地域づくりを進める組織体として、住民の最も身近な相談者であること、積極的な活動の提案を行いながら一緒に取り組んで行くことが求められています。

また、単なる話し合いで終わるのではなく、協議した内容をそれぞれの活動の場で実践することで課題の共有、解決に向けた協議、地域福祉活動へフィードバックする仕組みづくりを進めました。

3. 総合相談体制の構築

総合相談・生活支援センター、障害者基幹相談支援センター、豊岡地域包括支援センターから成る総合相談センターを中心に、高齢者、障がい者、ひきこもり、経済的困窮等複合多問題を抱える世帯への支援は、相談を受けた窓口がどんな相談も断らず受け止め、また、地域へ出向くことで課題を早期発見し、市・社協の庁内連携体制を活かした早期対

応、地域の社会資源開発など、相談者、関係機関、市、地域住民をつなぎながら支援の見立てを行い、解決までの一貫したマネジメントに取り組みました。

(1) 総合相談・生活支援センター

生活困窮者自立相談支援事業をもとにした総合相談窓口として、支援対象者を経済的困窮者だけではなく、様々な生きづらさを抱え、社会的に孤立もしくは排除されている方、ひきこもりの方、複合多問題世帯、制度の狭間にある方など幅広く受け止め相談支援を行いました。

対象者一人ひとりの思いによりそい、困りごとの整理を行い、生活再建のための自立支援プランの作成を行いました。目標実現に向け、本人、支援機関、市、地域住民、事業所等と役割分担しながら支援を進めました。

また、個別支援を通じて、「一人」を支える地域づくりをめざし、地域福祉課地域福祉係・生活支援係、各地区センターの地域福祉担当職員と連携しながら活動を展開しました。

主な支援事例

➤地域とのつながりが疎遠な生活困窮世帯、ゴミ屋敷となっている状況。その方の思いや困りごとを地域住民に理解をしてもらえる働きかけを行い、ゴミの片付けを地域住民や関係機関職員と一緒に行いました。その取組みを通じて、地域住民とのつながりが強まり、見守ってもらえる関係性ができました。

① 総合相談支援チーム会議の定期開催

市（健康福祉部各課、こども支援センター、消費生活センター、各振興局）と社協との連携による生活困窮者の早期発見・早期対応を目的とした「総合支援チーム会議」を定期開催し、支援困難事例の解決に向けて必要な支援や仕組みの検討を行いました。

主な支援事例

➤失業後、人との関わりを避け、ひきこもりがちな生活をしているケースで、本人の手先の器用さを生かし、民間事業所での中間的就労先を開拓し、一般就労へ向けて就労訓練に取り組んでいます。

② 地域住民との協働による支援

地域から孤立している生活困窮者を支える人材の発掘や居場所づくり等を地域福祉担当職員等とともに区役員や地域住民に理解を得られるよう働きかけ、生活困窮者の地域の出口づくりに取り組み、具体的な支援につながりました。一方で、地域住民への働きかけが弱かったり、具体的に支援してもらいたいことが提示できていないために、出口づくりが進んでいない事例もあります。

主な支援事例

➤ゴミ屋敷となっている生活困窮世帯において、本人の友人、地域住民、市関係部署職員、社協地域福祉担当職員が連携し、自宅の清掃を行いました。

➤経済的困窮、アパートに暮らす地域から孤立している末期ガンのひとり暮らし高齢者への支援として、地域とのつながりが作れるよう地域住民に「ふれあい喫茶」のお世話役として参加を働きかけた結果、地域の中で本人の役割を作ることでき、地域住民との交流が進み、見守り支援につながりました。

③ 就労体験を通じた支援

就労から遠ざかり、ひきこもりがちな生活をしている方や就職活動を行うが結実せず自信

を失っている方などを対象に、社協の事務作業の一部を就労体験として実施しました。就労体験を通じて、支援対象者の仕事のスキル（理解力、作業スピード、正確性等）やコミュニケーション能力を評価し、就労意欲を高めました。

(2) 障害者基幹相談支援センター

障がい者の総合的、専門的な相談機関として様々な相談に応じ、計画相談、基本相談等を行い、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう本人、家族に寄り添い関係機関や地域住民と協働しながら支援を行いました。

① 豊岡市障害者自立支援協議会の運営

ア. 地域の相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、関係行政職員等が中心となり、地域課題の解決に向けた取り組みを行いました。

イ. 地域の相談支援事業所より挙げた地域課題を運営会議にて協議し、3つの部会毎にて協議・研究を行い解決への取り組みを行いました。

専門部会	内 容
せいかつ部会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重度心身障がい児の支援について本人・家族へのヒヤリングや先進地への視察研修を実施 ・ 福祉サービス事業所への喀痰吸引のフローチャート（研修の受講や必要な手続き等）を作成 ・ 医療ケアの必要な方の移動手段の確保について他自治体の実施状況の調査を実施 ・ 障がい者や生活困窮者の安定した住居確保に向けて、住居に関する支援の実態と課題を把握するアンケート調査を実施
こども部会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がいを抱える子どもを持つ保護者の居場所づくり「お話カフェ」を開催し、保護者同士で悩みを打ち明けたり、アドバイスすることで、保護者同士のつながりや学びの機会となりました。 ・ 児童支援サービス事業所の地域課題の共有、事業所間の連携を図ることを目的として「児童発達支援管理責任者ネットワーク会議」を開催し、事業所間の連携の強化等の必要性が共有できました。 ・ 児童を担当する相談員の情報共有、障害児相談計画の課題の明確化、相談スキルの向上を目的として「相談支援こども連絡会」を開催。また、市内の障害児相談支援を行う事業所マップを作成しました。
しごと部会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉サービス事業所等がノーマイカーデーへ参加し、公共交通の通勤手段の課題把握と障がい者の移動手段の維持・拡大を図りました。 ・ 障がい者の就労に関する理解や取り組みについて障がい者を雇用している企業にインタビューを実施し、市広報で企業の紹介や就労系福祉サービスのPRを行いました。 ・ 障がい者雇用の拡大を目的に、障がいの者の作業に取り組んでいる姿等を内容とした動画を作成しました。次年度、動画の活用方法について検討を行います。

② 豊岡市障害者虐待防止センター

ア. 障がい者虐待に関する早期発見と迅速な対応を行うため当事者、家族、事業所等からの通報や届出の受理（電話・ファックス、メール等で24時間受付）、再発防止の観点から虐待後の支援や指導を当事者、家族等に行いました。

イ. 関係機関・団体に虐待防止法の趣旨や通報義務について広報、普及啓発活動を実施しました。

③地域移行・地域定着事業の推進

・精神障がい者等の地域（在宅）生活の移行について障がい者支援施設や精神科病院等へ普及啓発を実施しました。

④地域の相談支援体制の強化の取組み

・相談支援事業者へ困難事例について同行訪問や助言による支援を行いました。
・研修会、事例検討等を通じた相談支援事業者の人材育成を行いました。

（3）地域包括支援センター

高齢者の総合相談機関として保健・医療、権利擁護、認知症、経済的困窮等さまざまな課題について相談に応じ、高齢者の方が住み慣れた地域で安心して生活できるように介護サービス事業所、民生委員、区役員、地域住民、市関係各課等と個別ケース会議を通じてそれぞれの役割を整理しながら支援を行い、さまざまな不安・困りごとを抱える高齢者の安定した在宅生活を支えました。

各地域包括支援センターでは、6つの圏域ごとに地域包括ケア会議を開催し、医療、介護・福祉等の多職種や地域住民等の協働のもと、「ひとり暮らし認知症高齢者の地域生活について」をテーマに認知症を地域課題として捉え、専門職と地域住民が連携して支えるための視点、必要な仕組みを検討することを通じて、地域課題の早期発見・早期対応に向けた地域のネットワークの構築に取り組み、見守り・声かけ訓練の取り組みにつながりました。

認知症について理解を広げることを目的に、小学生から高齢者まで幅広い世代を対象に認知症サポーター養成講座を開催し、当事者、家族が安心して暮らせる地域づくりに積極的に取り組みました。

平成27年4月の介護保険制度改正により要支援1・2や要介護状態に陥るおそれのある方への支援が市事業（総合事業）としてNPO、民間企業、社会福祉法人等の多様な主体による生活支援・介護予防サービス（ミニデイサービス、家事援助、配食等）へ移行される中、サービス利用の調整を行い、利用者の住み慣れた地域での安定した地域生活を支えました。

（4）社協がもつセーフティネット機能による支援

日常生活自立支援事業による金銭管理や資金貸付事業（生活福祉資金、法外援護資金）により、判断能力に不安のある高齢者、知的障がい者、精神障がい者や低所得者の生活の安定・自立を促しました。また、失業や疾病により食料の確保が困難な方へ緊急的に食料を提供するなど、生活困窮状態にある方の生活を守るセーフティネット機能の役割を発揮しました。

①日常生活自立支援事業

判断能力に不安のある高齢者、知的障がい者、精神障がい者の福祉サービス利用や日常的金銭管理の支援を行いました。認知症高齢者や障がい者の安定した地域生活を支える事業として、金銭管理支援にとどまらず、総合相談センターや関係機関と連携しながら就労、居場所、疾病、家族関係等、生活全般に係るさまざまな相談、支援を行い、利用者の生活改善や生活困窮の予防の役割を果たしました。

契約数（平成29年3月末現在）（単位：件）

	豊岡市	香美町	新温泉町	合計
平成27年度	62	19	2	83
平成28年度	60	20	2	82

契約者内訳（単位：人）

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計
31	25	24	2	82

② 生活福祉資金、法外援護資金

一時的に離職状態にある方、就労しているものの非正規雇用により十分な収入が得られない方に資金の貸付を行うことで、経済的自立を支えました。

また、経済的な問題だけでなく、就職活動や就労する能力に課題を抱えている方や、貸付に該当しない（債務返済等）が、何らかの支援の必要性がある方については総合相談センターにつなげるなどして連携を取りながら地域生活を支えました。

生活福祉資金貸付状況

資金種類	件数	貸付金額
福祉資金	1件	1,022,000円
教育支援資金	2件	2,080,000円
総合支援資金	1件	150,000円
緊急小口資金	13件	1,207,000円
臨時特例つなぎ資金	0件	0円

法外援護資金

貸付件数	15件
貸付金額	725,000円

③ 緊急食料支援事業

失業や疾病など様々な理由で食べるできない生活困窮世帯に、緊急的に食料を提供し、自立に向けた支援を行いました。

障がいや精神疾患により就労ができない、金銭管理能力に乏しく家計管理支援が必要なケースが多く、食料支援にとどまらず資金貸付、場合によっては生活保護申請による緊急的な経済的支援につなげていますが、長期的、継続的な関わりが必要となっています。

○支援実績 26件

○ニーズキャッチ機関

機関・部署	件数
市社会福祉課	4
市健康増進課	2
市振興局	1
社協本所	3
社協地区センター	2
地域包括支援センター	1
障害者基幹相談支援センター	1
総合相談・生活支援センター	1 2

○提供食料の内容

米、レトルト食品、カップ麺、インスタントみそ汁等

(世帯構成人員により柔軟に対応。窓口もしくは自宅訪問による食料提供。)

【使命2】

つながる・つなげる社協

～新たなつながりをつくり、先駆的な取り組みに挑戦します～

1. 地域の福祉ニーズに基づく先駆的な取り組みへの体制づくり

(1) 新規事業・サービスの開拓に向けた協議体としてのテーブルづくり

社協は、把握した住民ニーズに基づいて、先駆性を発揮しながら、事業・活動の開発や改善等に取り組んできました。また同時に、制度から漏れた人々や目まぐるしい制度変化等への対応を行うなどの即応性も求められています。

昨年度、失業や疾病から食料の確保が困難な方を対象とした「緊急食料支援事業」を新規事業として始めましたが、過疎化、介護、障がい、子育て、ひきこもり等の分野で制度の狭間にある生活課題については、活動実践者や関係機関等と協議・連携する場を十分に持っていないために、課題・ニーズを把握できず、課題解決に向けた新規事業・サービスの開発に向けた基盤が脆弱でした。

また、市民から預託いただいた善意銀行の使い途についても、ランドセルカバー、除雪助成、火事見舞金等に活用していますが、現状の地域の生活課題・ニーズの解決に向けて十分活用されている状況にあります。

制度の狭間にある生活課題・ニーズの解決に向けた新規事業の開発と、善意銀行を財源とした新規活用法について検討を行う「善意銀行プロジェクトチーム」を今年度、立ち上げました。プロジェクトチームには、過疎化、障がい、子育て等の分野で制度の狭間で生きづらさを抱えた人の生活課題・ニーズの解決に向けて積極的に取り組む地域住民や専門職が参画し、それぞれの活動の中の共通する課題、緊急に取り組む課題等を整理しながら、必要な取組みを検討しました。

その第一段階として、地域の中で生きづらさを抱えた人を含め、誰もが気軽に寄れて、自由な活動ができる空き家等を活用した毎日型の住民交流拠点づくりに取り組むことを打ち出し、具体的な実施方法や住民交流拠点の設置・運営が効果的に実施されるよう助成のあり方について研究を進めました。

また、本会では多岐にわたる地域福祉事業を展開していますが、各事業の現在の社会的ニーズ、成果等について十分に点検・評価ができていないため、内容を見直さないまま例年同様に実施している事業があります。今後は、各事業の社会的ニーズ、地域活動への移行の見込み等を点検し、必要に応じて各事業のあり方について見直しを行っていきます。

(2) 障がい者（児）の居場所づくり等による社会参加の拡大

障がい者（児）の社会参加の機会、当事者同士や地域住民との仲間づくり等を目的として、気軽に集える居場所づくりに取り組みました。企画・運営、実施までの準備等に関して、地域住民や高校生が主体となって関わり、おかしづくりやコーヒーを飲みながら相互に理解を深め、障がい者（児）だけではなく地域住民にとっての居場所として定着化を進めました。

地域によっては参加者が固定化され新たな参加者が少なくなっており、事業の啓発の見

直しが必要になっています。また、地域住民と協働して当事者が居場所づくりから地域活動への参加につながるような支援について検討が必要です。

地域	実施回数	場所	延べ参加者数
豊岡 (北中校区)	4回	五荘公民館	57人
豊岡 (南中校区)	3回	喫茶ラ・ティエラ	52人
城崎	4回	城崎健康福祉センター	80人
日高	4回	日高健康福祉センター	127人
出石	4回	出石健康福祉センター	341人
但東	4回	但東健康福祉センター	102人

【使命3】

信頼される社協

～地域福祉をしっかりと推進できる社協組織をめざします～

1. 社協の事業体組織としての機能強化及び運営強化

社協は地域福祉を推進する中核的な組織として、市民が抱えるニーズ・生活課題を解決するべく、新たなサービス等の開発を着実に取り組めるよう安定的な経営基盤と組織運営が求められています。

社会情勢に応じたニーズ・生活課題の解決には社協活動へ住民参加が何よりも不可欠です。しかし、本会においては、理事会、評議員会等での住民参加の場はありますが、地域住民や選出団体が様々な意見を積極的に出し合うプラットフォーム（※）機能が弱い状況でした。

本年4月に、地域住民ニーズ・生活課題に迅速に対応できる組織づくりを目ざして、マネジメント機能の強化、住民参画による組織運営を実行できるよう、理事、評議員の選出区分の見直し、部会・委員会の役割の明確化、地区センター運営委員会を地域福祉推進委員会への名称変更等を行いました。

※プラットフォーム：地域において住民や各団体、関係機関が集まり意見交換をできる場やその機能。

(1) マネジメント機能の強化

住民からの要望を受け止め、活動に反映できる仕組みづくりと、社協活動への参加意識を醸成できるよう、既存の6つの部会・委員会を4つに再編するとともに、役割を明確に位置づけました。

部会	役割	協議内容
経営戦略部会	将来予測に基づいた経営方針や、組織再編、雇用体系や給与制度等の見直し等の協議	○第1回 H28.6.14 ・ H27年度基盤強化計画取り組み状況の点検・評価 ・ H28年度基盤強化計画実施計画の検討 ○第2回 H28.9.5 ・ 職員配置状況、財政状況（将来収支予測）の検討 ○第3回 H28.10.11 ・ 心配ごと相談、結婚相談事業の見直しについて ○第4回 H28.11.17 ・ 平成28年9月末収支状況について ・ 地域密着型介護サービス施設の建設について ○第5回 H28.12.7 ・ 定款の変更について

		<ul style="list-style-type: none"> ・評議員選任・解任委員会運営規程の制定について ・評議員選任規程の一部改正について ・平成 28 年度第1 次資金収支補正予算（案）について ・小規模多機能型居宅介護事業所の建設スケジュールについて <p>○第 6 回 H29.2.14</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支え合いの地域づくり活動助成金について ・生活支援体制整備事業の推進方法の見直しについて <p>○第 7 回 H29.3.7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度組織体制について ・平成 29 年度事業計画について ・平成 29 年度資金収支予算について
地域福祉部会	行政区、地区圏域における住民主体の支え合いの地域づくりの進捗状況の評価・検証	<p>○第 1 回 H28.6.28</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H27 年度小地域福祉活動支援状況（住民の居場所、話し合いの場づくり等）の点検・評価 ・H28 年度取り組み目標の点検 <p>○第 2 回 H28.11.8</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度上半期地域福祉推進状況について ・豊岡市地域福祉計画策定進捗状況について <p>○第 3 回 H29.3.24</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度地域福祉推進状況について ・豊岡市地域福祉計画について
在宅福祉部会	利用者のニーズに合った新たな形態のサービスや事業の実施、既存事業の見直し等、安定した介護保険事業の運営に向けた協議	<p>○第 1 回 H28.8.24</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H28 年度介護サービス事業所の現状と今後の取り組みについて点検・評価 ・地域密着型介護サービス施設の建設について <p>○第 2 回 H28.10.18</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型介護サービス施設の建設について <p>○第 3 回 H28.11.16</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上半期介護サービス事業収支状況 ・事業所目標達成に向けた今後の取り組みについて ・地域密着型介護サービス施設の建設について <p>○第 4 回 H29.3.13</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型多機能施設について
善意銀行運営委員会	預託金を配分先の見直しを含め、地域福祉活動推進のため適正な使い途について協議	<p>○第 1 回 H28.8.4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H28 年度地域活動支援センター運営助成について ・善意銀行プロジェクトチームの役割について <p>○第 2 回 H28.12.19</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動支援センターへの助成について <p>○第 3 回 H29.2.20</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動支援センター施設整備助成について ・平成29年度善意銀行運営事業予算（案）について
--	--	---

(2) 企画経営係の新設

企画総務課の企画総務係と財務係を企画経営係に統合し、法人運営の強化と財務分析・改善計画を一体的に推進する体制を整備しました。

(3) 第三者評価委員会の設置

「一人ひとりが つながり 支え合う 安心な地域づくり」を基本理念とした基盤強化計画（平成26年度－平成30年度）に基づき、住民に必要とされる社協となるため、組織体制の改編・強化に取り組んできましたが、平成18年の合併後、本会の取り組みについて第三者の立場による評価を実施していませんでした。

計画の中間年である平成28年度に市民、経営コンサルタント、税理士等による「基盤強化計画第三者評価委員会」を設置しました。委員会では、各事務事業の個別評価ではなく、合併後に着手できなかった課題を含めて、第三者的な視点で点検・評価が行われ、経営組織としての基盤強化と地域福祉を総合的に推進する観点から「セーフティネットの砦」としての機能の確立と社協改革に向けて「第三者評価委員会報告書」として、具体的な提言を受けました。提言により、基盤強化の方向性が打ち出され、今後、社協としてあるべき姿・ビジョンが明確になりました。

○基盤強化計画第三者評価委員会の主な提言

- ・要介護者が最後まで住み慣れた地域で暮らし続けるために地域住民と連携した通い、訪問介護、宿泊のサービスを合わせ持った小規模多機能型事業への進出
- ・地域福祉担当職員が本来業務に集中できるように、既存事業の見直し
- ・課題解決の仕組みをより効率的に推進するために、各地域包括支援センターを総合相談センターの下に置いた相談業務が集約された組織構成
- ・採用・配置・育成・評価・処遇等の人事管理の各機能を現行の仕組みを活かした再構築
- ・法人業績と連動した賞与の総原資（総額）の管理

2. 職員の人材育成に向けた基盤整備

平成27年3月に作成した「人材育成基本方針」では、めざす職員像を「地域福祉のプロフェッショナルとして、自ら考え、果敢に挑戦する職員」と定め、目まぐるしく変化する社会情勢の中で起こる時代のニーズ・生活課題に地域福祉の専門職として持てる能力を最大限に発揮し、自ら挑戦し続ける職員を育成することを位置づけました。

基本方針の中では、管理職、指導的職員、中堅職員、新任職員と階層別に求められる資質・能力を定めています。職員自身が求められる職員の育成に向けて必要な取り組みを創り出していくために、地域福祉、相談業務、介護サービス部門の各階層の職員から構成

される「思いをかたちにするプロジェクト」を結成し、職員が自由に参加できる話し合いの場をつくり、求められる職員の育成に必要な職場内の環境づくり・改善（上司の指導のあり方、相談しやすい環境づくり等）について検討し、実践に取り組み始めました。

職員研修の実施

	開催日	対象	内容
コーチング研修	H28.4.11、4.12 5.10、5.11、5.26	常勤職員	各職員の業務上の目標、課題への取組みについて講師の面談により助言・指導を受けた。
新任職員研修	H28.4.25	平成 27,28 年 度入職職員	講義：社会福祉協議会の役割と本会の基本理念・使命について、基盤強化計画の推進について等
コンプライアンス研修	H28.5.27	全職員	グループワーク：職場環境の課題の改善、ルール of 順守について検討
職場風土革新研修	H28.11.7、12.12	主任以上の職員	顧客満足を理解することによる職場風土改善のための行動指針作成等

3. 安定した財源確保と健全な財政運営

本会は、社協会費や共同募金配分金、寄付金（善意銀行）等の「自主財源」と補助金、受託金収入等の「公的財源」、介護報酬等の「事業収入」を財源として、地域福祉活動の推進に向けた様々な活動を展開するために、安定した財源の確保が求められています。

昨年度、将来収支予測を行った結果、介護保険事業収入が制度改正により今後も減収が見込まれ、早急に介護サービス事業所の経営改善と、法人全体のコスト意識の改善に取り組む必要性が明らかになりました。

(1) 介護保険サービス事業経営の基盤強化

本会の収入の大半を占めている介護報酬の安定的な確保に向けて、目標管理制度の中で各事業所が収益改善に向けた具体的な目標（一月あたりの利用者数等）の設定、民間の居宅介護支援事業所へ利用者受入についての働きかけの強化や地域コミュニティ組織に参加し地域住民へ活動を啓発する等の取り組みの設定と実践により、利用者並びに収入増加につながっている事業所もあり、職員の目標管理に対する意識が高まっています。しかし、介護保険サービス事業全体では介護報酬収入は前年度対比で減少しており、安定した事業経営の基盤強化のために介護報酬収入増加に向けて事業運営を点検し、利用者には選ばれる事業運営の展開が必要です。

(2) 地域密着型介護サービスの展開

時代の変化とともに、時短・延長サービス、リハビリなど好きなメニューだけの利用、制度外の自主サービスなど利用者の介護サービスに対するニーズも多様化しており、そのようなニーズに柔軟に対応する他事業所へ移行する利用者が増え、市内における本会の介護保険サービス事業の占有率、介護保険事業収入ともに近年減少しています。

安定した財源の確保に向けて、各サービスの内容が利用者のニーズに答えているのか点検、見直しを進めるとともに、既存の介護サービス事業だけでなく、利用者の在宅生活を守りきるために、新たな収益の柱となる事業の展開が必要となっています。

収益を確実に確保するとともに、要介護状態になっても住み慣れた地域での生活を守りきるには、介護サービス事業の提供だけでは最後まで在宅生活を支えることは困難なため、地域福祉事業やインフォーマルサービスと連携した支援が求められています。

地域における利用者のその人らしい在宅生活を守りきるために、地域福祉と介護サービスを一体化した運営を、社協らしく地域住民、医療、訪問看護、民間事業者等と協働して実施していく介護サービスのあり方について研究を進めました。

利用者の在宅生活を守りきるために、その人の生活、価値観を大切に、通所介護、訪問介護、宿泊機能が一体化され24時間、365日介護サービスが提供でき、地域の交流拠点として誰でも自由に出入りが可能で、多様な立場の住民が交流し、様々な困りごとに対応する相談拠点機能を持った地域密着型の小規模多機能型居宅介護施設の立ち上げを日高地域東構区で取り組み始めました（平成30年4月オープン予定）。

(3) 善意銀行の有効活用

社会情勢や地域課題に応じた活用の見直しを行うとともに、過疎化、障がい、子育て、ひきこもり等の分野で制度の狭間の生活課題・ニーズの解決に向けて取り組む地域住民や専門職が参画する「善意銀行プロジェクトチーム」を立ち上げ、制度の狭間の問題の解決に向けて善意銀行の新規活用法の検討に取り組み、毎日型の住民交流拠点への助成のあり方について研究を進めました。

善意銀行への預託状況が年々減少していますが、要因として用途についてしっかり啓発できていないことが挙げられます。善意銀行運営委員会で、効果的な啓発のあり方について検討を行い、善意銀行のロゴマークやキャッチフレーズ等の開発について研究を進めました。

豊岡市社会福祉協議会事業活動

1. 地域福祉活動

1-1 地域包括支援センター

高齢者が住み慣れた地域で、尊厳あるその人らしい生活を送ることができるよう、介護予防サービスをはじめ、保健・福祉・医療の向上、生活の安定のために必要な援助・支援を包括的に行いました。

相談件数 (単位：件)

	介護相談	総合事業	介護予防	介護給付	入退所・院	高齢者福祉	障がい者福祉	保健・医療	権利擁護	認知症に関する事	経済	その他	合計
豊岡	683	2,493	3,068	257	359	688	131	802	329	590	405	353	10,158
城崎・竹野	235	1,080	1,296	105	69	592	49	318	289	122	68	55	4,278
日高	665	2,116	1,941	277	163	310	102	227	126	197	133	106	6,363
出石・但東	741	762	1,231	174	221	604	51	246	110	83	93	293	4,609
合計	2,324	6,451	7,536	813	812	2,194	333	1,593	854	992	699	807	25,408

ケアプラン作成件数 (予防給付・総合事業・支え合い・からだ元気塾・委託件数含む)

(単位：件)

豊岡	城崎・竹野	日高	出石・但東	合計
5,628	2,106	2,450	2,330	12,514

1-2 障害者基幹相談支援センター

介護、就労、居場所等さまざまな課題を抱える障がい者が自立した社会生活を営むことができるよう、総合相談・生活支援センター、介護サービス事業所等と連携を図りながらサービス利用計画を作成するなど総合的な支援に取り組みました。

また、判断能力が不十分な方の成年後見制度等の利用促進を図るとともに、虐待被害を受ける障がい者が安定した地域生活を営めるよう虐待の防止・早期発見に努めました。

支援内容 (単位：件)

虐待無	虐待有	制度利用	障害病状の理解	健康医療	不安解消	保育教育	家族・人間関係	家計経済	生活技術	就労	社会参加	権利擁護	その他	合計
5,422	305	4,841	76	99	333	67	63	52	14	92	33	5	52	5,727

ケアプラン作成件数 120件

1-3 総合相談・生活支援センター

対象者（生活困窮者）を様々な生きづらさを抱え、社会的に孤立されている方、経済的に困窮されている方、複合多問題世帯、制度の狭間にある方など幅広く受け止め相談支援を行いました。

相談件数 （単位：件）

病気 障害	住まい	収入 生活費	家賃 ローン支払	税金、 公共料金 支払	債務	仕事探し	仕事上の 不安、トラブル
66	35	116	37	42	31	62	7
地域との 関係	家族関係 人間関係	子育て 介護	ひきこもり 不登校	DV 虐待	食べるも のが無い	その他	合計
7	36	8	6	10	17	8	488

自立支援プラン作成件数 27件

就職へつながった件数 28件

1-4 日常生活自立支援事業

判断能力に不安のある高齢者、知的障がい者、精神障がい者などの方に対して、福祉サービスの利用や日常的な金銭管理について、生活支援員や行政、障害者相談支援事業所、福祉施設等の関係機関・団体と連携を図りながら支援を行いました。

基幹的社協としての事業実施地域…豊岡市、香美町、新温泉町

契約数（平成29年3月末現在） （単位：件）

	豊岡市	香美町	新温泉町	合計
平成27年度	62	19	2	83
平成28年度	60	20	2	82

事業の取り組み状況（問い合わせ・相談援助） （単位：件）

福祉サービス利用 援助事業に関して	成年後見制度に関 して	その他	合計
3,076	85	1,334	4,495

1-5 生活福祉資金

低所得世帯、障がい者世帯、高齢者世帯が抱える制度の狭間や複合的な課題に対して、資金の貸し出しだけに止まらず、総合相談センターや関係機関と連携を図りながら、利用者の安定した地域生活の支援を行いました。

資金種類	件数	貸付金額
福祉資金	1件	1,022,000円

教育支援資金	2 件	2,080,000 円
総合支援資金	1 件	150,000 円
緊急小口資金	13 件	1,207,000 円
臨時特例つなぎ資金	0 件	0 円

相談件数 301 件

1-6 法外援護資金

低所得者に対して5万円を限度額として（特別な事情がある場合は10万円まで可）法外援護資金を貸し出すことにより、生活の自立を促しました。貸付期間1年以内。

法外援護資金貸付状況

貸付件数	15 件
貸付金額	725,000 円

1-7 心配ごと相談

誰もが安心して自分らしい生活が送れるよう、地域住民が抱える家族、福祉、生計、住宅など多岐にわたるさまざまな悩みについて、専任相談員や民生委員が相談に応じ、解決のための助言や各関係機関に繋げました。

開設日

豊岡	城崎	竹野	日高	出石	但東
月～金曜日	第1・3 木曜日	第3 水曜日	毎月10日・ 25日	第1・3 木曜日	第1・3 木曜日

相談件数（単位：件）

豊岡	城崎	竹野	日高	出石	但東	合計
55	4	7	12	4	1	83

1-8 結婚相談

結婚を望んでいるが、出会いの機会が少ないといったことにより結婚に至らない方へ、結婚相談員が相談・助言や紹介を行いました。また、豊岡市内だけにこだわらず但馬全域の登録者の中で相談員による情報交換を行い、よい出会いの提供に取り組みました。

結婚相談所開設日

豊岡	城崎	竹野	日高	出石	但東
第1・3 金曜日	第2 木曜日 (偶数月)	第2 金曜日	毎月10・ 25日	第1・3 水曜日	第1 木曜日

(単位：件)

	豊岡	城崎	竹野	日高	出石	但東	合計
相談件数	33	1	1	123	48	0	206
紹介	75	2	3	41	50	3	174
見合い	42	0	0	23	18	0	83
成婚	5	0	0	3	1	0	9
成婚の内、相談員が関わった件数（再掲）	1	0	0	3	1	0	5

結婚相談所登録者（単位：人）

地域	全但登録者数		計	豊岡市内限定登録者数		計
	男	女		男	女	
豊岡	58	19	77	11	6	17
城崎	6	0	6	0	2	2
竹野	4	1	5	4	1	5
日高	11	4	15	6	3	9
出石	20	2	22	11	6	17
但東	11	0	11	0	0	0
合計	110	26	136	32	18	50

1-9 婚活事業

20歳～40歳の独身男女を対象に、各種イベントの開催により出会い・交流の場を創出するとともに、婚活サポーターや婚活サポート企業、婚活イベント協力委員等の市民や企業・団体の協力を得ることで、男女の結婚に向けた様々な機会を提供することを目的として事業を実施しました。

はーとピーイベント開催状況

開催日	参加者（人）	実施場所	カップル数
H28.4.1	24	西村屋ホテル招月庭レストランR icca	6
H28.5.15	23	いっぽ村	4
H28.6.18	24	たけのこ村	3
H28.6.26	24	パインニードル	3
H28.7.9	23	武士	6
H28.7.24	30	豊岡市役所 食堂	5
H28.8.20	24	豊劇 ajito	5
H28.9.10	29	ナポリ食堂ポルコロッソ	3
H28.9.25	24	shou shou pot	4
H28.10.23	22	「山の季」きゃら	2
H28.10.29	14	中筋公民館横	2

H28.11.13	19	葉膳美食処 銀の月	4
H28.11.20	28	オーベルジュ豊岡1925	5
H28.12.10	23	Café AZUR	5
H29.1.15	23	BLA-KI-TE恋	3
H29.1.28	21	タベルナサクハタ	5
H29.2.18	25	三矢	2
H29.2.25	24	キッチン de カフェ・エフ	5
H29.3.18	23	お好み焼き 偶 豊岡店	2
H29.3.26	22	レストラン&スモールインカッセル	6
合計	469		80

婚活サポート企業 121社

1-10 法律相談

法律の専門家である弁護士が、市民の財産・家族などの身近な法律問題へのアドバイスをを行いました。

開設日…毎月第1火曜日 相談件数…86件

1-11 福祉団体活動費助成事業

事業の内容…豊岡市内の福祉団体へ社会参加と交流の場づくり、組織化の支援・促進を目的として共同募金配分金事業より支援を行いました。

助成先	金額(円)
豊岡市老人クラブ連合会	318,000
豊岡市身体障害者福祉協会	312,000
豊岡市手をつなぐ育成会	78,000
豊岡市婦人共励会	186,000
豊岡市民生委員児童委員連合会	624,000
豊岡市遺族会	120,000
豊岡市子ども会連絡協議会	130,440

1-12 福祉委員活動の推進

地域(行政区)のアンテナ役として、研修等を通じて困りごとの発見、連絡、人材確保など、地域の福祉課題に応じた活動が行われるよう働きかけました。

□福祉委員委嘱数 (単位:人)

	豊岡地域	城崎地域	竹野地域	日高地域	出石地域	但東地域	合計
福祉委員	148	31	42	70	51	52	394
推進委員			103				103

□福祉委員研修会

福祉委員が身近な地域の困りごとや、生活しづらさを感じている住民の立場にたち、地域の課題として考え、解決に向けた活動を促進することを目的に開催しました。

地域	開催日	参加者数	地域	開催日	参加者数
豊岡	H29.2.27	83人	日高	H28.6.17	52人
				H28.9.16	53人
				H29.3.28	50人
城崎	H28.10.21	14人	出石	H28.9.30	45人
	H28.10.25	27人		H29.2.27	35人
	H29.2.22	22人			
竹野	竹野南支部	10人	但東	合橋地区	23人
	H28.6.17			H28.7.20	
	H28.9.16			9人	資母地区
	H29.2.8	10人		H28.7.22	
	竹野中支部	6人		但東地域	35人
	H28.6.20			H28.9.23	
	H28.9.21			10人	高橋地区
	H29.2.8	6人		H29.3.19	
	竹野支部	15人			
H28.6.22	15人				
H28.9.26	11人				
H29.2.8	14人				

1-13 子ども福祉委員

子どもたちが自分の住む地域やそこに暮らす人の生活や地域活動に関心を持ち、自分に何ができるかを考え、地域内の活動に参加するなど、子どもたちの体験活動を展開し、郷土愛の醸成と豊かなまちづくりを進めることを目的として小学校の児童に子ども福祉委員を任命しました。

小学校名	人数(人)	小学校名	人数(人)	小学校名	人数(人)
豊岡	11	新田	27	竹野	21
中竹野	33	竹野南	15	八代	20
福住	14	小坂	9	資母	14
合橋	10	高橋	9		
				合計	183

1-14 住民座談会

住民が地域(行政区)の課題に目を向け、住民自らが考え行動できる地域づくりをすすめるために、困りごとの解決に向け住民ができること、やってみたいことなどを話し合いました。

地域	行政区	実施日	参加者数
----	-----	-----	------

			(人)
豊岡	百合地	H28.6.4	10
	桜木	H28.6.29	12
	梶原	H28.8.29	7
	畑上	H28.9.2	10
	伏	H28.9.9	12
	百合地	H28.10.21	10
	八社宮	H28.10.27	7
	引野	H28.10.29	14
	瀬戸	H28.11.15	24
	戸牧北	H28.11.16	10
	下加陽	H28.11.17	11
	土洩	H28.11.19	13
	高屋	H28.12.11	20
	市谷	H28.12.12	3
	生田東	H29.2.6	7
城崎	元薬師	H28.6.30	8
		H28.11.16	8
		H29.2.9	3
	湯の元	H28.7.13	5
		H28.9.7	4
		H28.11.28	4
		H28.12.12	2
		H28.12.14	3
		H29.2.20	4
	宮本	H28.6.17	2
桃島	H28.12.20	6	
竹野	下塚	H28.7.12	21
	草飼	H28.10.30	16
	鬼神谷	H29.2.27	10
日高	伊府	H28.4.12	7
	虹の街	H28.4.17	13
	観音寺	H28.6.1	12
	芝	H28.6.13	18
	殿	H28.7.23	10
	上郷	H28.8.25	13
	江原	H28.11.7	16
	万劫	H28.11.25	10
	土居	H29.2.28	25

出石	暮坂	H28.6.25	7
	川原	H28.9.13	15
但東	中藤	H29.3.15	6

1-15 地域探検隊

地域住民が地域の歴史や誇るべきもの、次世代へ伝えていきたいことを企画し、子どもたちや保護者に伝えていくため、地域内の歴史拠点等の探検を通じて、自分たちが住む地域への関心や愛着を深め、地域内のコミュニティづくりをすすめました。

地域	行政区	実施日	参加者(人)
但東	薬王寺	H28.10.2	71

1-16 ふれあいいいききサロン

地域の中で気軽に参加でき、地域や近隣同士の交流と助け合いや見守り活動をすすめる「ふれあいいいききサロン」の新規立ち上げや安定した運営に向けた支援を行いました。

いきいきサロンの活動助成金として、市社協から開設1年目～3年目までのいきいきサロンへ年間5万円の助成金を、4年目～6年目のいきいきサロンへ年間3万円の運営助成を行いました。

□活動状況(助成終了後含む)

	豊岡	城崎	竹野	日高	出石	但東	合計
サロン数	62	11	20	43	27	22	185

□助成件数(サロン数)

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	合計
サロン数	24	12	14	12	14	13	89

1-17 地域応援事業

世代間交流、地域で支援を必要とする方を支える活動など行政区における先駆的な活動や、障がい者団体や介護者の会などセルフヘルプグループが行う交流・仲間づくりを目的とする活動に3万円を上限として助成を行い、地域における助け合い・支え合い活動の推進を図りました。

助成件数…15件

1-18 子育てサークル

地域の子育てサークルが安定的に活動できるよう、運営の助言や子育て支援ボランティアのマッチング等を行いました。

また、活動助成金として年間2万円を上限として助成を行い、地域全体による子育て・子育て支援活動の推進を図りました。

助成件数…6件

1-19 とよおか子どもまつり

地域住民やボランティアによる食育やさまざまな体験コーナーを通じて、子育て中の親子が楽しく交

流を深め、子育て支援の輪を広げる機会としました。

開催日	場所	来場者数（人）
H28.6.11	豊岡市民プラザ	930

1-20 福祉まつり

福祉団体、関係機関、ボランティア等がバザー販売、福祉活動の啓発、ステージ発表等を行い、多くの参加者が交流を深めました。

地域	開催日	場所	来場者数（人）
城崎	H28.10.30	城崎健康福祉センター	700
竹野	H28.10.16	竹野健康福祉センター 及び多目的運動広場	790
日高	H28.10.23	日高文化体育館	2,800
出石	H28.10.9	ひぼこホール	1,000
但東	H28.10.23	但東健康福祉センター	1,000

1-21 ひとり暮らし高齢者のつどい

食事会、ボランティアによる踊り、ゲーム等を通じて相互交流を深めました。

地域	開催日	場所	参加者（人）
城崎	H28.6.29	久美浜	34
竹野	H28.7.12	竹野健康福祉センター	40
日高	H28.6.30	観音寺区公民館	21
	H28.7.12	日高健康福祉センター	50
	H28.7.14	上石区公民館	22
	H28.7.28	八代ふれあいセンター	8
出石	H28.12.1	出石健康福祉センター	27
但東	H28.11.6	但東健康福祉センター	27
	H28.11.13	資母地区交流センター	48
	H28.11.13	高橋地区公民館	42

1-22 障害者（児）なかよしゲーム・スポーツ大会

障がい者当事者、作業所職員、ボランティア等による実行委員会が企画・運営を行い、レクリエーション・スポーツを通じて相互理解と交流を深めました。

開催日	場所	参加者（人）
H28.7.2	豊岡総合体育館	200

1-23 障がい者（児）居場所づくり

障がい者（児）の社会参加の機会、当事者同士や地域住民との仲間づくり等を目的として、気軽に集える居場所づくりを行いました。企画・運営、実施までの準備等に関して、地域住民や学生が主体となって関わるなど、障がい者（児）の居場所として定着化を進めました。

地域	開催日	場所	参加者 (人)
豊岡 (北中校区)	H28.5.22	五荘公民館	12
	H28.10.9		12
	H28.11.20		19
	H29.3.19		14
豊岡 (南中校区)	H28.9.11	喫茶ラ・ティエラ	17
	H28.12.18		17
	H29.3.19		18
城崎	H28.6.4	城崎健康福祉センター	18
	H28.9.3		18
	H28.12.3		19
	H29.3.4		25
日高	H28.6.5	日高健康福祉センター	44
	H28.8.28		23
	H28.12.11		28
	H29.3.12		32
出石	H28.7.9	出石健康福祉センター	84
	H28.8.27		72
	H28.12.17		99
	H29.3.4		86
但東	H28.7.9	但東健康福祉センター	22
	H28.9.24		25
	H28.12.23		32
	H29.3.12		23

2. ボランティア・市民活動センター、福祉学習

2-1 ボランティア登録数 (H. 29. 3. 31 現在)

	豊岡	城崎	竹野	日高	出石	但東	計
グループ数	36	28	15	17	55	16	167
加入者数	967	301	405	270	541	468	2,952
個人登録者	230	15	11	2	9	84	351

2-2 コーディネート件数

	豊岡	城崎	竹野	日高	出石	但東	計
ボランティア活動の相談・問い合わせ	202	186	464	221	250	192	1,515
コーディネート件数	231	169	559	221	251	206	1,637

2-3 ボランティア連絡会

ボランティア・市民活動センターに登録している個人ボランティア、ボランティアグループを中心として連絡会を開催してボランティア活動の活性化に向けた情報交換を行い、必要な分野では連携できる活動体制づくりをめざしました。またボランティア・市民活動センターと協働してボランティア活動を通して地域の活性化に取り組みました。

	竹野	日高	出石	但東
開催回数	1	3	6	1

2-4 児童・生徒のボランティア活動推進事業

豊岡市内小・中・高等学校の児童・生徒を対象として、福祉への理解と関心を高め、「福祉の心」を培うことを目的とする活動を行う学校に、年間5万円の助成金を交付しました。

助成先45校

2-5 ボランティア体験教室

ボランティアグループや関係機関と協働し、福祉を身近な問題として学べる機会として、幅広い体験教室を開催し、参加者の福祉・ボランティアへの関わりの第一歩としました。

内容…車いす体験、点字体験、アイマスク体験、子育てボランティア体験、福祉施設ボランティア体験、お弁当づくり体験、配食体験 など

延べ参加人数 1,667人

3. 在宅福祉サービス

3-1 給食サービス事業（食の自立支援事業+自主事業）

ひとり暮らし・ふたり暮らし高齢者などに、ボランティアの協力を得ながら栄養バランスの取れた弁当を作り、お届けしました。

	城崎	竹野	出石	但東	合計
実施日数(日)	146	146	148	148	588
延利用者(人)	1,674	3,386	2,003	3,078	10,141

3-2 福祉用具貸与事業

高齢や障がいなどにより日常生活に支障を伴う方に福祉用具を貸し出し、自立生活の支援を行いました。

貸与品目…電動ベッド、手動ギャッジベッド、車いす、松葉杖、歩行補助杖、歩行器、シャワーチェア、介護テーブル等

	豊岡	城崎	竹野	日高	出石	但東	合計
貸出件数	121	35	25	97	11	33	322

3-3 家族介護教室・家族介護者交流事業

在宅の介護者に、介護方法や介護予防、介護者の健康づくりなどについての知識・技術を習得する機会の提供や、心身のリフレッシュを図るために日帰り旅行や食事会を行いました。

	城崎	竹野	出石	但東	合計
開催回数(回)	7	7	5	4	23
延参加者(人)	32	73	22	41	168

3-4 生きがい活動支援通所事業

高齢者の方の閉じこもりの予防として、仲間づくりや交流の場としての役割を果たしました。また、ゲームや頭の体操などの様々なレクリエーションや、作品づくりをする事で介護予防の効果も果たしました。

	豊岡	城崎	竹野	日高	出石	但東	合計
開催回数(回)	49	24	26	12	168	34	313
延利用者数(人)	165	262	562	113	1,879	420	3,401

3-5 米寿者祝福事業

87歳を迎える方を対象に米寿のお祝いとして、ボランティアの協力を得て記念撮影を行い、9月

の高齢者保健福祉月間に民生委員などから写真を贈呈しました。対象者679名中、535名の方が写真を受け取られました。

3-6 最高齢者・最高齢夫婦祝福事業

豊岡市内の最高齢者・最高齢夫婦に9月の高齢者保健福祉月間にお祝い金（各1万円）を贈呈。

3-7 新100歳祝福事業

豊岡市内の新たに100歳を迎えられた方を対象に9月の高齢者保健福祉月間にお祝い金（各1万円）を33名の方に贈呈。

4. 法人運営

4-1 理事会（理事定数13名）

回数	開催日	出席理事数	協議事項
1	H28.4.3	13人、監事2人	第1号議案 理事長・副理事長の互選について 第2号議案 職務代理者の指名について 第3号議案 評議員の選任について
2	H28.4.28	12人、監事2人	報告事項6件 第4号議案 豊岡市社会福祉協議会城崎デイサービスセンター運営規程等の一部改正について 第5号議案 豊岡市社会福祉協議会豊岡西デイサービスセンター運営規程等の一部改正について 第6号議案 豊岡市社会福祉協議会豊岡ヘルパーステーション運営規程等の一部改正について 第7号議案 豊岡市社会福祉協議会訪問入浴事業所運営規程の一部改正について 第8号議案 功労者の表彰について
3	H28.5.19	13人、監事2人	報告事項1件 第9号議案 豊岡市社会福祉協議会定款の一部改正について 第10号議案 平成27年度豊岡市社会福祉協議会事業報告について 第11号議案 平成27年度豊岡市社会福祉協議会決算について 第12号議案 豊岡市社会福祉協議会職員6月賞与について
4	H28.7.28	13人、監事1人	報告事項3件 第13号議案 善意銀行規程の一部改正について 第14号議案 職員就業規則の一部改正について 第15号議案 嘱託・臨時職員就業規則の一部改正について 第16号議案 非常勤職員就業規則の一部改正について 第17号議案 非常勤ヘルパー就業規則の一部改正について 第18号議案 育児・介護休業等に関する規則の一部改正について 第19号議案 職員給与規程の一部改正について 第20号議案 嘱託・臨時職員給与規程の一部改正につ

			いて 第 21 号議案 平成 28 年度共同募金（平成 29 年度事業費）「地域目標額」の設定に係る豊岡市社会福祉協議会 充当計画について
5	H28.8.25	12 人、監事 2 人	報告事項 6 件 第 22 号議案 基盤強化計画の第三者評価委員会の設置 について
6	H28.11.25	10 人、監事 1 人	報告事項 5 件 第 23 号議案 豊岡市社会福祉協議会職員 12 月賞与に ついて 第 24 号議案 介護保険事業積立金の取り消し崩しにつ いて 第 25 号議案 平成 28 年度歳末たすけあい運動配分につ いて
7	H28.12.15	12 人、監事 1 人	報告事項 3 件 第 26 号議案 定款の変更について 第 27 号議案 評議員選任・解任委員会運営規程の制定 について 第 28 号議案 評議員選任規程の一部改正について 第 29 号議案 小規模多機能型居宅介護事業者公募の 申請について 第 30 号議案 平成 28 年度第 1 次資金収支補正予算に ついて 第 31 号議案 豊岡市社会福祉協議会補欠評議員の同 意について
8	H29.2.23	10 人、監事 2 人	報告事項 9 件 第 32 号議案 豊岡市社会福祉協議会補欠評議員の同 意について 第 33 号議案 評議員選任・解任委員会の委員の選任に ついて 第 34 号議案 新評議員候補者の推薦について 第 35 号議案 豊岡市結婚相談所運営規程の一部改正 について 第 36 号議案 豊岡市中心配ごと相談所運営規程の一部改 正について 第 37 号議案 豊岡市地域福祉計画について
9	H29.3.16	12 人、監事 2 人	報告事項 5 件 第 38 号議案 豊岡市社会福祉協議会補欠評議員の同 意について 第 39 号議案 平成 29 年度組織体制について

			<p>第 40 号議案 平成 28 年度豊岡市社会福祉協議会第 2 次資金収支補正予算について</p> <p>第 41 号議案 平成 29 年度豊岡市社会福祉協議会事業計画について</p> <p>第 42 号議案 平成 29 年度豊岡市社会福祉協議会資金収支予算について</p> <p>第 43 号議案 育児・介護休業等に関する規則の一部改正について</p> <p>第 44 号議案 セクシャル・ハラスメント防止規程を廃止する規程について</p> <p>第 45 号議案 ハラスメント防止規程の制定について</p> <p>第 46 号議案 セクシャル・ハラスメント苦情処理委員会規程を廃止する規程について</p> <p>第 47 号議案 ハラスメント苦情処理委員会規程の制定について</p> <p>第 48 号議案 職員就業規則の一部改正について</p> <p>第 49 号議案 嘱託・臨時職員就業規則の一部改正について</p> <p>第 50 号議案 非常勤職員就業規則の一部改正について</p> <p>第 51 号議案 非常勤ヘルパー就業規則の一部改正について</p> <p>第 52 号議案 職員給与規程の一部改正について</p> <p>第 53 号議案 嘱託・臨時職員給与規程の一部改正について</p> <p>第 54 号議案 地域福祉推進委員会規程等の一部改正について</p> <p>第 55 号議案 役員等の報酬及び費用弁償に関する規程の一部改正について</p> <p>第 56 号議案 経理規程の一部改正について</p>
--	--	--	---

4-2 評議員会

回数	開催日	出席評議員数	協議事項
1	H28.5.24	20 人	<p>第 1 号議案 豊岡市社会福祉協議会定款の一部改正について</p> <p>第 2 号議案 平成 27 年度豊岡市社会福祉協議会事業報告について</p> <p>第 3 号議案 平成 27 年度豊岡市社会福祉協議会決算について</p>
2	H28.12.21	17 人	<p>報告事項 1 件</p> <p>第 4 号議案 豊岡市社会福祉協議会定款の変更について</p>

			て 第5号議案 平成28年度第1次資金収支補正予算について
3	H29.3.22	25人	第6号議案 平成28年度豊岡市社会福祉協議会第2次資金収支補正予算について 第7号議案 平成29年度豊岡市社会福祉協議会事業計画について 第8号議案 平成29年度豊岡市社会福祉協議会資金収支予算について 第9号議案 補欠理事の選任について

4-3 正副理事長会議

開催回数…9回

4-4 善意銀行

	預託件数	金額
平成27年度	341件	14,506,017円
平成28年度	316件	12,976,773円
比較	△25件	△1,529,244円

4-6 社協会費

一般会費（一世帯年額1,200円）

年度	世帯数	会費納入額	納入世帯数	前年度対比
平成27年度	32,914世帯	28,675,380円	23,919世帯	25,460円
平成28年度	32,869世帯	28,818,980円	24,010世帯	143,600円

賛助・施設会費（年額2,000円以上）

年度	賛助会費		施設会費		一般会費との 合計金額	前年度対比
	件数	金額	件数	金額		
平成27年度	728	3,178,800円	30	118,000円	31,972,180円	49,460円
平成28年度	705	3,227,800円	29	125,000円	32,171,780円	199,600円

5. 介護保険・障害者サービス

5-1 居宅介護支援事業

在宅の要介護・要支援者が介護サービス等を適切に利用できるよう、利用者の依頼を受けて、その心身の状況、生活環境、利用者及びその家族の希望を勘案し、居宅サービス事業所や関係機関と連携・調整を図りました。

延利用者数（単位：人）

	平成27年度	平成28年度	比較
豊岡	1,257	1,313	56
豊岡北	1,975	1,997	22
日高	2,935	2,650	△285
出石	1,561	1,490	△71
但東	1,371	1,268	△103
合計	9,099	8,718	△381

5-2 訪問介護事業

訪問介護員が要介護・要支援状態にある利用者の居宅を訪問して、入浴、排泄、食事などの介護や、掃除、洗濯、調理などの生活援助、また通院介助を行った。

延利用者数（単位：人）

	平成27年度	平成28年度	比較
豊岡	12,318	13,858	1,540
城崎	4,751	4,763	12
竹野	6,529	5,675	△854
日高	11,439	12,218	779
日高西	14,069	12,080	△1,989
出石	15,701	13,963	△1,738
但東	12,019	10,994	△1,025
合計	76,826	73,551	△3,275

5-3 訪問入浴介護事業

看護職員1名と介護職員2名が利用者宅を訪問し、組み立て式浴槽にて入浴、洗髪などのサービスを提供しました。入浴前後には、看護職員が健康チェックを行いました。

延利用者数（単位：人）

平成27年度			平成28年度			比較		
介護	障がい	合計	介護	障がい	合計	介護	障がい	合計
1,462	297	1,759	1,286	209	1,495	△176	△88	△264

5-4 通所介護事業

要介護・要支援状態にある利用者へ健康チェック、入浴、レクリエーションなどを通じて心身の機能の維持や交流の場を提供しました。また、家族の身体的及び精神的負担の軽減を図りました。

延利用者数（単位：人）

	平成27年度			平成28年度			比較		
	介護	障がい	合計	介護	障がい	合計	介護	障がい	合計
豊岡港	5,692	47	5,739	5,478	73	5,551	△214	26	△188
豊岡西	5,498	286	5,784	5,186	304	5,490	△312	18	△294
城崎	2,653	0	2,653	2,719	0	2,719	66	0	66
竹野	6,759	0	6,759	6,356	50	6,406	△403	50	△353
竹野南	2,766	0	2,766	2,600	0	2,600	△166	0	△166
日高中央	5,415	52	5,467	5,005	61	5,066	△410	9	△401
日高西	6,324	0	6,324	6,255	0	6,255	△69	0	△69
日高東	5,473	0	5,473	6,094	0	6,094	621	0	621
日高八代	1,990	0	1,990	2,075	0	2,075	85	0	85
但東	5,910	0	5,910	5,783	0	5,783	△127	0	△127
合計	48,480	385	48,865	47,551	488	48,039	△929	103	△826

5-5 障害者サービス事業

訪問介護員が要介護・要支援状態にある身体障がい、知的障がい、精神障がいをもつ利用者の居宅を訪問して、入浴、排泄、食事などの介護や、掃除、洗濯、調理などの家事援助や移動介助を提供しました。

居宅介護 延利用者数（単位：人）

	平成27年度	平成28年度	対前年度比較
豊岡	1,513	1,569	56
城崎	255	309	54
竹野	418	501	83
日高	1,023	871	△152
日高西	367	337	△30
出石	974	807	△167
但東	1,005	1,128	123
合計	5,555	5,522	△33

同行援護 延利用者数 (単位：人)

	平成27年度	平成28年度	対前年度比較
豊岡	87	85	△2
城崎	445	432	△13
竹野	0	0	0
日高	0	29	29
日高西	0	0	0
出石	160	136	△24
但東	0	0	0
合計	692	682	△10

移動支援 延利用者数 (単位：人)

	平成27年度	平成28年度	対前年度比較
豊岡	30	56	26
城崎	7	52	45
竹野	44	39	△5
日高	0	0	0
日高西	14	1	△13
出石	28	32	4
但東	1	9	8
合計	124	189	65

6. その他

6-1 災害救援派遣

4月に発生した「平成28年熊本地震」により被害を受けた被災地の復興活動支援のために、ボランティアを集い被災地へ派遣し、避難所の運営支援を行いました。また、被災地の災害ボランティアセンターへ職員を派遣し、運営支援を行いました。

(1) ボランティア派遣

派遣先	派遣期間	人数	活動内容
熊本県 益城町災害 ボランティアセンター	H28.7.20～ 7.22	ボランティア14人 市職員1人 社協職員1人	避難所の運営支援

(2) 職員派遣

派遣先	派遣期間	人数	活動内容
熊本県 西原村災害 ボランティアセンター	H28.5.1～5.6	2人	災害ボランティアセンター 福祉避難所の運営支援
熊本県 西原村災害 ボランティアセンター	H28.5.5～5.10	1人	災害ボランティアセンター
熊本県山都町 シル バーピアさくら樹（福 祉避難所）	H28.6.10～6.15	2人	福祉避難所の運営支援